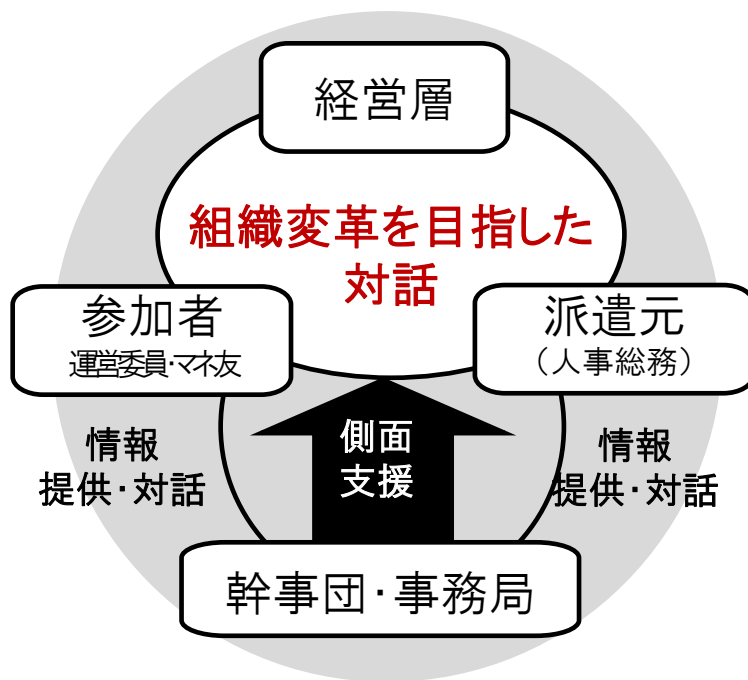


# 2018年度 部会運営に関する説明資料

- **人材マネジメント部会 運営基本方針**
- **各研究会の狙いと流れ、求める実践**
- **研究会企画の根底にある考え方**

本部会は、**地域経営をリードしうる組織・人材とは何か、それを現実の中でどう実現していくのか**を検討し、様々な実践からの成果を組織と地域に還元していこうとする研究の場である。幹事団と事務局は、社会変化に対する感度を高く保ち、たゆまざる自己変革を行いながら、研究会の企画運営にあたることを基本方針として共有する。

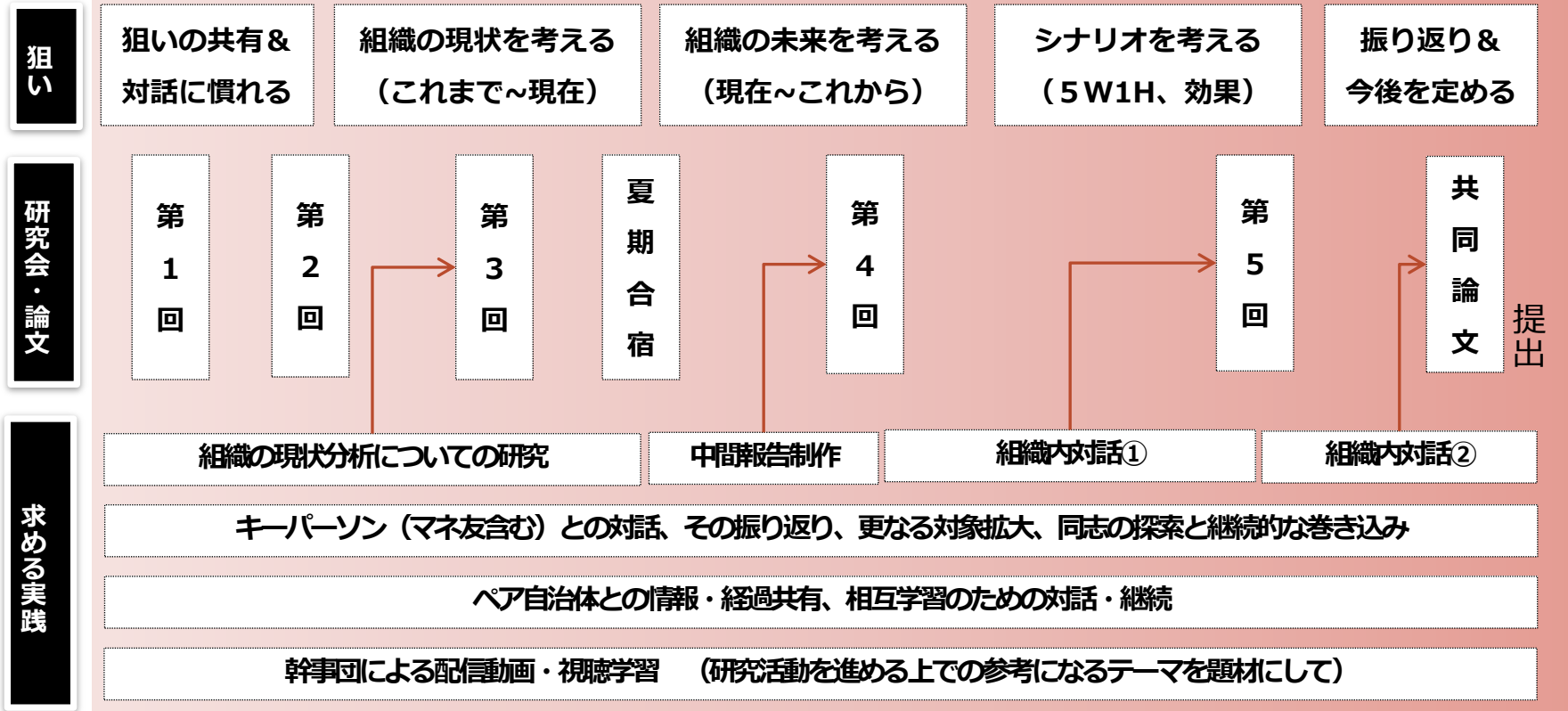


## 幹事団と事務局の思い

参加自治体の中で組織変革を目指した真摯な対話が効果的に為されるよう、各研究会の企画運営、情報制作・提供、直接的な対話の場面を通じ、側面支援を続けて参ります。

# 各研究会の狙いと流れ、求める実践 2018年度版

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月



## ■組織の「現状分析」を重視し、“真の課題”を見極める

- ・ キーパーソンとの間で深い対話機会を（複数回）得る協力を貰う
  - ・ 現在の事象だけでなく、過去の経緯等についても十分に踏まえる
  - ・ 経営層や総務部局など、組織経営の“本丸”とも対話の機会を得る
  - ・ 仲間を増やす巻き込みを通じて、変革への動きを加速・拡大する
- ★ この活動そのものが「組織変革」の大きな流れ・うねりをつくる！



## ■気をつけたいポイント：「対症療法」を選ばないようにしたい

- ・ 組織やその課題は極めて抽象的である（目に見えず、日頃ほとんど意識しない）
- ・ ゆえに、その現状把握や課題の特定を“あいまいな・決め打ちのような形のまま”対応策の実践に移ってしまうとそれは「対症療法」となり、効果が得られないだけでなく、失敗感・徒労感に陥る恐れもある。
- ・ さらに、理解者・賛同者を増やさず、自分たちだけの思いと行動だけで何かを進めてしまうと、それが失敗した場合、再チャレンジの難易度が高くなる。